

HOME DENTIST PROFESSIONAL



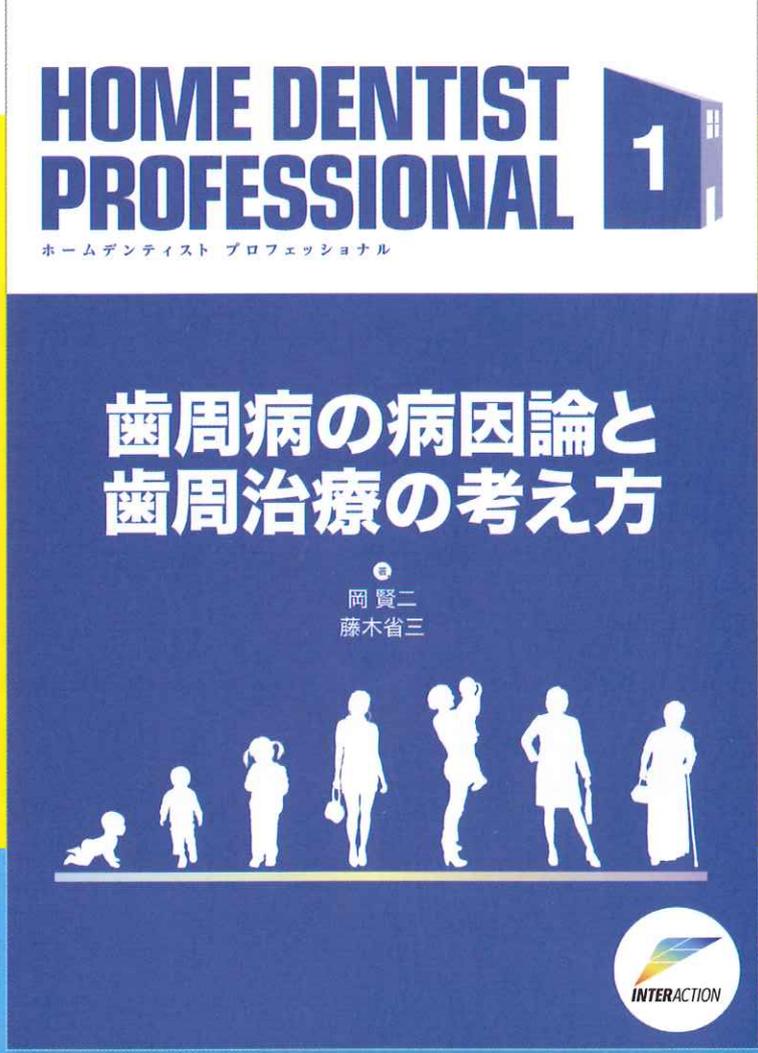
ホームデンティスト プロフェッショナルシリーズ 第1巻

著 岡 賢二 / 藤木省三

歯周病の 真実がわかる!

今、最もハイエンドで、堅実な
歯周治療の考え方、見方を凝縮した一冊

欧米一辺倒の情報だけでは、けして見えてこなかった歯周病の真実。それは地域で腰を据え、個々の患者の歯周病を観察し続けてきた日本の臨床医でなければ見えなかった歯周病の本当の姿でした。それが最新サイエンスと合致した今、ホームデンティストとしての日本の臨床医の仕事が光り始めます。



歯周病の病因論と 歯周治療の考え方

著 岡 賢二
藤木省三



A4判 112ページ 税込価格9,504円

続々、読者の声が届いています

これこそが、
これから必要な
歯周治療の
考え方だ!

共感しながら
あっという間に
読み切った!

著者二人の
臨床姿勢に脱帽!

今、最もハイエンドな 歯周病の見方がわかる

治療により、いったん歯周組織と細菌の均衡を取り戻しても、歯周病は、遺伝や患者の健康、人生、生活など、均衡を崩す要因に大きく影響される疾患です。本書では、その考え方をふまえた歯周病の見方を4つのKEYで解説します。



KEY 1

歯周病の見方その1 時間軸で考える 歯周病は過去から現在の両診、考察が重要

PART 1で述べたように、歯周病は臨床的にも病態も異なるといえます。それを踏まえて一つの方向から「時間軸」で考えることが重要です。時間軸は大きく分けて2つあります。

▲ 高年層時間軸だけで判断を下してはならない

一つは、高年層時間軸だけで判断を下してはならないことです。前記の通り年齢と歯周病の重症度と関係がありますが、同じ6mmの歯周ポケットでも年齢が若い人と、10年、20年かけて蓄積した場合は、今後よりリスクも高くなっていく可能性があります。若い歯周病では、いつか必ず一定量の歯周病が蓄積しますが、蓄積のペースが若い人と比べて遅いペースで蓄積している可能性があります。その場合、高年層時間軸だけで判断を下してはならないです。

▲ 病歴を踏まえて適切なケアが必要

二つの時間軸の両方を、結果を踏まえて適切に評価する必要があります。年齢も歯周病も、年齢の増加と歯周病の重症度の関係は、必ずしも一致しません。年齢の増加と歯周病の重症度の関係は、必ずしも一致しません。年齢の増加と歯周病の重症度の関係は、必ずしも一致しません。年齢の増加と歯周病の重症度の関係は、必ずしも一致しません。

KEY 2

歯周病の見方その2 患者の感受性を考慮する 年齢と環境の程度に関する情報が、術後経過の推察に重要

▲ 年齢と環境の程度を考慮する

1950年代に母と父の両親の歯周病が原因で、歯周病の発症リスクが高くなる傾向が報告されました。これは、歯周病の発症リスクが高くなる傾向が報告されました。これは、歯周病の発症リスクが高くなる傾向が報告されました。これは、歯周病の発症リスクが高くなる傾向が報告されました。



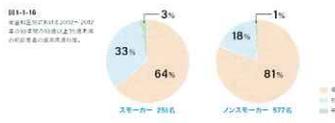
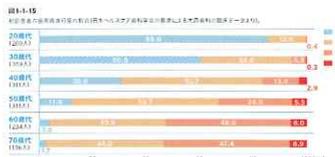
図1-13 年齢と環境の程度が歯周病の発症リスクに与える影響を示す。年齢と環境の程度が歯周病の発症リスクに与える影響を示す。年齢と環境の程度が歯周病の発症リスクに与える影響を示す。

KEY 1

ホームドENTIST・プロフェッショナルとして、 初期から中等度歯周炎は 確実に治そう

▲ 初期中等度の歯周炎患者の治療に注力する

歯周病の発症リスクが高くなる傾向が報告されました。これは、歯周病の発症リスクが高くなる傾向が報告されました。これは、歯周病の発症リスクが高くなる傾向が報告されました。これは、歯周病の発症リスクが高くなる傾向が報告されました。



KEY 2

若い人の 歯周炎の発症を防ぐことに 力を注ごう

若い世代の歯周病発症率が増加していることが報告されています。これは、若い世代の歯周病発症率が増加していることが報告されています。これは、若い世代の歯周病発症率が増加していることが報告されています。

▲ 高校生から20代の患者の発症を見過ごさない

若い世代の歯周病発症率が増加していることが報告されています。これは、若い世代の歯周病発症率が増加していることが報告されています。これは、若い世代の歯周病発症率が増加していることが報告されています。

▲ 慢性歯肉炎への早期の対応を

慢性歯肉炎の発症率は、年齢とともに増加しています。これは、慢性歯肉炎の発症率が年齢とともに増加していることが報告されています。これは、慢性歯肉炎の発症率が年齢とともに増加していることが報告されています。

地域に貢献する 歯周治療の意義と 価値がわかる

患者さんとの長いおつきあいを通して
歯周病の管理をしていく、これこそが
“HOME DENTIST PROFESSIONAL”の
使命であることを3つのKEYで解説します。



全16頁のサンプル版を小社HPでダウンロードできます
URL <http://interaction.jp>

Prologue

- 「病因論」を歯科臨床の基盤に据える
- 「人」としての患者を診る
- 時間軸で歯科疾患を診る
- 経験を蓄積し検証する
- 「過去に対する治療」と「未来に対する治療」
- 歯周治療こそがホームデンティストの重要な仕事

PART1 最新科学で学ぶ歯周病

【第1章】著者と一緒に辿る 40年の歯周治療の旅

- 1970's 歯周病と言えば「全顎FOP」と「骨切除整形」だった
- 1980's 「あなた方はオーバートリートメントの傾向にあるようですね」
Ramfjordが一掃した歯周治療の10のドグマ 歯周病の多様性とSRPの威力を実感
- 1990's 喫煙のもたらすリスクに気づく
- 2000's 最新の科学が臨床の疑問を解いてくれた

【第1章のまとめ】現在の視点で歯周病の病因論を整理してみよう —「科学」の変遷で学ぶ21世紀の歯周治療の考え方—

- 1950's 歯石が原因説
- 1960's 非特異的プラーク説
- 1970's 特異的プラーク説
- 1980's 宿主と細菌の関係7
- 1990's 宿主と疾患修飾因子
- 2000's バイオフィルムによる内因性感染

PART2 歯周治療のコンセプトと実際

【第1章】臨床判断はこう変わる 歯周治療の実際

- KEY1: 歯周病の見方その1
時間軸で考える —歯周病は過去から現在の問診、考察が重要—
- KEY2: 歯周病の見方その2
患者の感受性を考慮する —年齢と破壊の程度に関する情報が、術後経過の推察に重要—
- KEY3: 歯周病の見方その3
患者の生活習慣を考慮する 特に喫煙の状況を把握する —現在の喫煙や過去の喫煙歴は重要な問診事項である—
- KEY4: 歯周病の見方その4
患者は時間軸と共に変化する —歯周治療では、患者に寄り添う姿勢が重要—

【第2章】地域の歯科医院としてのコンセプトと目標

- KEY1: ホームデンティスト・プロフェッショナルとして 初期から中等度歯周炎は確実に治そう
- KEY2: 若い人の歯周炎の発症を防ぐことに力を注ごう
- KEY3: 医院力の育成と熟成に尽力しよう

Epilogue

- 「疾患概念」う蝕も歯周炎も疾患概念は同じである
- 「治療手段」歯周基本治療が最も効果的な治療である
- 「結論」歯周治療に魔法の弾丸はない

全5巻 順次配本!

- 第2巻 チーム医療で取り組む歯科診療室づくりの実践
- 第3巻 歯周基本治療のエッセンスとノウハウ
- 第4巻 メインテナンスのエッセンスとノウハウ
- 第5巻 最新科学が変えるう蝕治療のコンセプトと実際

著者プロフィール



岡 賢二 おか けんじ

大阪府吹田市開業 岡歯科医院

- 1977年 大阪大学歯学部卒業、
歯科補綴学第一教室入局
- 1982年 大阪府吹田市にて
開業現在に至る



藤木 省三 ふじき しょうそう

兵庫県神戸市開業 大西歯科

- 1980年 大阪大学歯学部卒業
- 1985年 神戸市灘区で開業
- 1998年 日本ヘルスケア歯科研究会会長
現在、一般社団法人
日本ヘルスケア歯科学会 副代表



発売：株式会社シエン社

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-1-10
TEL:03-3816-7818 FAX:03-3818-0837



インターアクション株式会社

〒180-0023 東京都武蔵野市境南町 2-13-1-202
TEL:070-6563-4151 FAX:042-290-2927
URL: <http://interaction.jp>